

天橋立を世界遺産にする会 令和3年度事業報告

1 研究及び普及啓発事業

コロナ禍の中、海外の学識者の招聘など国際的な理解・評価を高める活動はできなかったが、地元や京都市内での講演会を実施し、国内での普及啓発に努めた。

(1) 天橋立名勝100年記念式典【宮津市、天橋立を守る会と共催】

令和4年度は、天橋立保全の契機となった「史蹟名勝天然記念物保存法」に基づく名勝指定から100年の節目の年に当たることから、今後の保全活動の機運醸成を図るため記念式典を開催した。

日 時：令和4年2月27日（日） 午後1時から1時30分

会 場：みやづ歴史の館2階 文化ホール

参加者：約100名

来 賓：本田太郎（衆議院議員） 中山 泰（京丹後市長）
西脇隆俊（京都府知事／代理：鈴木副知事） 吉本秀樹（伊根町長）
中島武文（京都府議会議員） 山添藤真（与謝野町長）
金田章裕（天橋立世界遺産登録推進会議会長）

(2) 天橋立世界遺産講演会【行政と共催】

学識者を招いて講演会を開催。天橋立の魅力と未来に継承し守り育てていくべき地域の宝であることを再認識するとともに、世界遺産登録への道のりや地域の取り組みについて学んだ。

日 時：令和4年2月27日（日） 午後1時45分から4時

会 場：みやづ歴史の館2階 文化ホール

参加者：約100名



本田太郎衆議院議員の祝辞



くす玉開披

内 容：講演1「国宝雪舟筆「天橋立図」と文化財の保護継承

朝賀 浩（宮内庁長官官房 参事官）

講演2「日本における世界遺産登録の歩みと天橋立」

稲葉信子（筑波大学名誉教授、国際機関 ICCROM 事務局特別アドバイザー）

（3）現地視察【行政と共催】

天橋立世界遺産講演会の開催に先立ち、講演会講師、天橋立世界遺産登録推進会議会長、行政関係者による構成資産候補地の視察を実施。

日 時：令和4年2月26日（土）

視察地：智恩寺→成相寺旧境内（国史跡）→傘松公園→籠神社→京都府立丹後郷土資料館、丹後国分寺跡（国史跡）→天橋立（特別名勝）（丹後土木事務所の取組み説明）

（4）天橋立世界遺産登録推進会議【京都府主催】

京都府が主催する天橋立世界遺産登録推進会議に今井会長、海部理事、羽渕監事が出席。

日 時：令和4年2月27日（日） 午前10時00分から11時30分

会 場：みやづ歴史の館3階 大会議室



講演会（左：朝賀浩先生、右：稲葉信子先生）



現地視察（左：成相寺旧境内、右：傘松公園）

(5) 天橋立世界遺産講座【京都府立京都学・歴彩館、行政と共催】

京都府立京都学・歴彩館を会場として4回シリーズで講座を開催し、京都市内において天橋立の魅力を紹介した。令和4年度は「古代から近代・現代にわたる天橋立の歴史」をテーマとした。

日 時：令和3年10月14日（木）から11月11日（木） 午後2時30分から4時30分

会 場：京都府立京都学・歴彩館 大ホール

参加者：のべ385名

第1回	10月14日	丹後の古代遺跡と丹後府中	菱田哲郎（京都府立大学教授）
第2回	10月21日	中世都市・丹後府中と天橋立	伊藤 太（京都府立山城郷土資料館）
第3回	11月4日	日本の名所と近世・近代の天橋立	上杉和央（京都府立大学准教授）
第4回	11月11日	文化的景観に天橋立の歴史を探る	河森一浩（宮津市教育委員会）

(6) パネル展示「天橋立と世界遺産」展【京都府立京都学・歴彩館、行政と共催】

天橋立世界遺産講座の開催期間にあわせ、京都府立京都学・歴彩館において、天橋立の価値や世界遺産登録推進運動、地域住民による天橋立の保全活動などを紹介するパネル展示を実施した。

日 時：令和3年10月14日（木）から11月11日（木）

会 場：京都府立京都学・歴彩館 1階ロビー

(7) 世界遺産市民講座【府中をよくする地域会議、行政と共催】

府中地区公民館を会場として、雪舟「天橋立図」（国宝）に描かれた都市の姿をテーマに講演会を開催し、地形や都市の変遷からみた丹後中と天橋立の関わりについて紹介した。

日 時：令和3年10月30日（土） 午後7時から8時30分

会 場：府中地区公民館 2階ホール

内 容：講演「中世都市研究からみた雪舟「天橋立図」」 山村亜希（京都大学教授）

参加者：62名



天橋立世界遺産講座（歴彩館）



世界遺産市民講座（府中地区公民館）

2 文化庁陳情

天橋立の世界遺産登録推進活動の一環として、本会による文化庁および京都府選出の国会議員への陳情活動を実施し、「世界遺産暫定一覧表（国内暫定リスト）」への天橋立の追加記載をお願いする旨について要望を行った。

日 時：令和3年11月12日（金）

場 所：（1）府選出衆参国会議員事務所 午前9時15分から10時30分

田中英之衆議院議員、本田太郎衆議院議員、勝目康衆議院議員
二之湯智参議院議員

（2）文化庁 午前11時から11時30分

塩見みづ枝（文化庁次長（京都府担当））、鈴木文孝（文化遺産国際協力室長）、
足立佳之（世界遺産企画係長）、矢吹香織（研修生 京都府派遣）、篠田智志（文化資源活用課長）

参加者：今井一雄（天橋立を世界遺産にする会 会長）

金田章裕（天橋立世界遺産登録推進会議 会長）

中島武文（京都府議会議員）

山添藤真（与謝野町長）

城崎雅文（宮津市長）

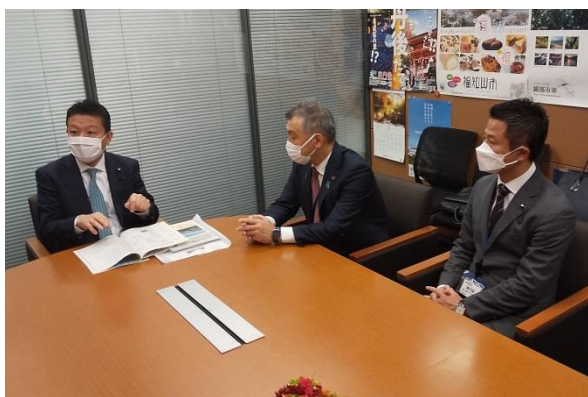
佃 賢治（京都府文化スポーツ部長）

京都府（上田、稲垣）

宮津市（大井、東）

3 PR事業

本会の活動や、天橋立の価値や世界遺産登録の意義を関連団体と連携してPRするとともに、新聞、TV放映等を通じて情報発信を行った。また、「天橋立名勝100年、特別名勝70年記念事業」にあわせてグッズの作成を行った。



陳情の様子（本田議員）



陳情の様子（文化庁）

(1) 関連団体、イベントとの連携およびPR活動

- ・迎春 天橋立一斉清掃
 - 日 時：令和3年12月12日（日）
 - 参加者：約1500人
 - 内 容：グッズ配布
- ・宮津市文化祭
 - 期 間：令和3年10月31日（日）から11月3日（水・祝）
 - 会 場：宮津市歴史資料館（特別開館）
 - 内 容：天橋立世界遺産講座の動画上映、パンフレット配布、会員募集

(2) メディア等を通じたPR活動

- ・産経新聞への広告掲載（京都・奈良版、令和3年9月22日／北摂版、令和3年9月24日）
- ・HPサーバーの外部委託および随時更新

(3) メディア取材の実績

本会の活動や天橋立の価値、世界遺産登録の意義について、各種メディアに取り上げられた。

- ・「京都ぶらり歴史探訪 119 絶景！天橋立 都人が目指した訳」BS朝日（令和3年7月28日）
- ・「ニュースの門@京都 先人の施策 天橋立を救う」『読売新聞（京丹後丹波版）』（令和4年2月19日）
- ・「ニッポン絵ものがたり 夢のかけはし」『読売新聞 日曜版 よみほっと（全国版）』（令和4年3月6日）

27 地域 2022年(令和4年)2月19日(土曜日) 産経新聞 丹波 版

京丹後丹波

京都の平治学園

京都総局 〒904-8162
中京区烏丸通六角下る七條会館603
☎代 075-231-1111 FAX 241-4880

丹波支局 ☎0773-62-5500 FAX 64-6189

宇治学研支局 ☎0774-33-0640 FAX 34-1540

福知山通信部 ☎0773-24-1266

宮津通信部 ☎0772-25-1161

京丹波通信部 ☎0772-64-2075

京田辺通信部 ☎0774-65-5031

ホームページ www.yomiuri.co.jp/local/kyoto/

購読料金は ☎0120-4343-81

News 先人の施策 天橋立を救う

ニュースの門@京都

記念物保存法

1897年(明治30年) 古社寺保存法制定
1919年(大正8年) 史蹟名勝天然記念物保存法制定
22年(大正11年) 天橋立を含む府内の景勝地などが指定される
50年(昭和25年) 文化財保護法制定
52年(昭和27年) 天橋立が特別名勝となる

昭和の絵はがきも天橋立を題材に描かれた

昭和に描かれた天橋立

(写真は府立丹波郷土資料館提供)

に残っている。世界遺産にふさわしい方向に進んでいけば」と期待する。

国内で文化財保護が本格的に取り組まれた大正時代。100年前の1922年3月8日に国の史蹟、名勝、天然記念物に指定された府内の古橋や景勝地、鉱石、庭園を紹介する。(松田陽)

「阿蘇海の金輪いわしや和歌山の文殊堂、名物の竹輪など生活、文化が宮々と深く密着や観光の機能が天橋立の特長だ。」と見九州の社長と会長を務めた石井幸孝さん(80)は、母親の出身地・宮津市をたぐひ助け、そんな思いを強く持った。平安時代に築かれた頃の面影が風景

された。同法の施行で全国で指定が進み、22年3月8日に天橋立は、雄土山が見渡せる静阿蘇の三保松原などととも名勝に指定された。井上准教授は「先人が土地や生物、文化財を保存する取り組みをしてくれたからこそ今、享受できている」と同法の意義を強調する。

人文系の文化財は戦前の国史(日本史)の重鎮だった黒板勝美、自然系の天然記念物は植物学者の三好孝といった研究者らが英語やドイツ語などに留学して保護施策や考えを学び、紀州徳川家当主の徳川頼倫らとともに真珠産出に11年に達した。

その離子を19年3月11日の読売新聞は「法律の力を借りて 史蹟や名勝の保存」「年々狭び行く天然記念物」などの見出しで、「松島、蔵島、天の橋立の如き日本三勝も着次料理店、藝妓、酌師其他自動車電車の如き交通機関が設置される。ので天然の風致が破壊されて行く。」などと伝えている。そんな取り組みが奏功し、同年、文化財保護法の前身の一つで、開港などから史蹟や景勝地などを守る史蹟名勝天然記念物保存法が制定

社寺保存法などで保護に乗り出した。麻呂翁新や相次ぐ開発などで文化財や自然、景観が損なわれていたことを危惧した知識層を中心に、保護を求める動きも起きた。

「天橋立が公認として認められた頃、東京では文化財保護を巡る画期的なできごとがあった。文化財保護の歴史に詳しい桃山学院大の井上敏准教授(53)によると、「富田強兵」「殖産興業」を掲げた明治政府は、古い寺や神社の価値ある建造物や宝物を保存するため、古

かったという。観光資源としても活用するため、地元の観光印刷・写真部は1903年、公開にして管理するよう知事に申し出た。府と国の協議を経て、06年、同部が管理する天の橋立公園が開設された。

京都市の府立京都学・歴史館に保存される同部の公文書には「天橋立公園松樹保護及松樹移植工事委任二仍り実施シタル旨」などとし、同部長が知事に送った請求書もある。同部が府の予算を得て、松並木の保存に及んだ様子がうかがえる。

MEMO

砂州は全長3.6キロ、幅20〜170などで、約700本の松がある。散策路があり、砂浜では夏に海水浴も楽しめる。南北両方の高台に歴史館があるが、北側の成相寺や西側の丹波国分寺跡などからも美しい風景が楽しめる。1922年に名勝、52年に特別名勝となり、宮津市は今年、名勝100年、特別名勝70年の記念行事を計画している。

知識層からも動き

天橋立が公認として認められた頃、東京では文化財保護を巡る画期的なできごとがあった。

文化財保護の歴史に詳しい桃山学院大の井上敏准教授(53)によると、「富田強兵」「殖産興業」を掲げた明治政府は、古い寺や神社の価値ある建造物や宝物を保存するため、古

社寺保存法などで保護に乗り出した。麻呂翁新や相次ぐ開発などで文化財や自然、景観が損なわれていたことを危惧した知識層を中心に、保護を求める動きも起きた。

人文系の文化財は戦前の国史(日本史)の重鎮だった黒板勝美、自然系の天然記念物は植物学者の三好孝といった研究者らが英語やドイツ語などに留学して保護施策や考えを学び、紀州徳川家当主の徳川頼倫らとともに真珠産出に11年に達した。

その離子を19年3月11日の読売新聞は「法律の力を借りて 史蹟や名勝の保存」「年々狭び行く天然記念物」などの見出しで、「松島、蔵島、天の橋立の如き日本三勝も着次料理店、藝妓、酌師其他自動車電車の如き交通機関が設置される。ので天然の風致が破壊されて行く。」などと伝えている。そんな取り組みが奏功し、同年、文化財保護法の前身の一つで、開港などから史蹟や景勝地などを守る史蹟名勝天然記念物保存法が制定

地域版New門のページはこちら

地域の話題を深掘りする連載「New門」は、今月、「日本遺産」(鳥取版)、「ジビエの今」(和歌山版)などのテーマで掲載します。読売新聞オンライン「地域版New門」のページには各地域の記事を掲載しています。会員登録をすれば、大阪本社版印刷の各地域版を毎日無料でご覧いただけます。

読売ニューメディアはこちら

「ニュースの門@京都 先人の施策 天橋立を救う」『読売新聞』

(4) グッツ等の作成

- ・「天橋立名勝 100 年、特別名勝 70 年」ロゴ
- ・「天橋立名勝 100 年、特別名勝 70 年」のぼり (30 本)



上：「天橋立名勝 100 年・特別名勝 70 年」ロゴ

右：「天橋立名勝 100 年・特別名勝 70 年」のぼり



4 その他 「会員1万人運動」の実施

世界遺産登録推進に向けた取組を継続していくため、平成 24 年度より個人会費を無料とし、地域内外を問わず大人から子どもまで広く会員募集を行うこととし、1 万人の会員登録を目標とする。また、団体会員は従来どおり一口 10,000 円以上の会費をお願いし、会の運営安定化につなげるとともに、地域団体が一体となった推進活動の展開を図った。